

10月下旬配本予定

# 佐藤千穂映画論集 映画夢情

えいがゆめなさけ

1960年代初めより『映画評論』『映画芸術』『日本読書新聞』を主に映画へのあふれる愛憎を自在闊達な文体で書き継いできた佐藤千穂。

わが国の映画批評の累積の中に潜在していた未知の輝きをここに集成！

解題＝梶間俊一、荒井晴彦

本書で取り上げられている主な映画作品・監督・俳優

ラルフ・ネルソン／加藤泰／あゝ同期の桜／炎と女／セックス・チェック 第二の性／博徒解散式／人生劇場 飛車角と吉良常／シドニー・ポラック／梅宮辰夫／北島三郎／武智鉄二／ひとりぼっちの青春／燃える戦場／エリア・カザン／皆月／EUREKA／鈴木清順 etc.

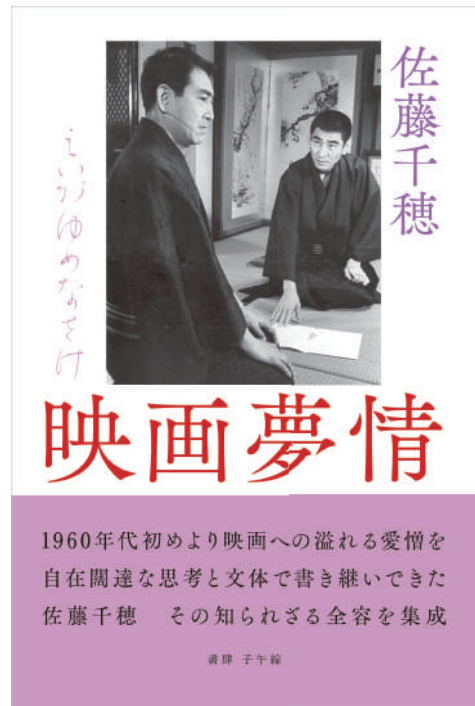
ボクにとっては近年最も刺激的な映画論集であった。 梶間俊一（映画監督）

小川徹の「裏目読み批評」なんて、いまや誰も知らないだろう。女小川徹みたいな千穂節の映画評論を世に知らしめたいとずっと思っていた。佐藤千穂映画論集がいま、どう読まれるか楽しみだ。

荒井晴彦（脚本家／映画監督／「映画芸術」代表）

著者プロフィール／佐藤千穂（さとうちほ）

1941年、横浜にて生まれる。旧姓・斎藤千穂。1960年、明治大学文学部東洋史専攻に入学、卒業まで同人誌および「日本読書新聞」へ映画評を投稿。1964年雑誌「映画芸術」編集部へ入社。1965年雑誌「映画評論」編集長・映画評論家・佐藤重臣のスカウトにより同誌上に佐藤静子のペンネームにて1970年の渡米まで執筆。1972年シカゴ市にて結婚。同年、雑誌「映画芸術」編集長・映画評論家・小川徹に私淑し、薦めにより同誌上に執筆を開始、「人は誤解する権利がある」と、師・小川徹の「裏目読み」評論手法に徹し、暗闇の中のスクリーンに義理人情の夢の世界と現実との狭間の闇を歯切れよい口調で展開した。1975年よりペンネームを本名・佐藤千穂に改める。1971年より執筆した「シカゴ・レター」を「カポネの街から」に改め連載。2001年、髄膜腫を発症し手術のために帰国。以後3度の摘出手術の後遺症による身体障害が重なり、2017年、断筆。



四六判・上製／676頁／定価4,800円+税  
ISBN978-4-908568-32-9 C0074 ¥4800E

▶ご注文はツバメ出版流通まで **FAX 03-3721-1922**

TEL 03-6715-6121 E-mail info@tsubamebook.com <http://tsubamebook.com>

貴店名（番線印）	<b>書肆子午線 新刊</b>		info@shoshi-shigosen.co.jp 返品条件注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人
	ご注文数	<b>映画夢情</b>	
ご担当	様	冊	ISBN978-4-908568-32-9 C0074 四六判・上製／676頁／定価=本体4,800円+税